



## 大阪IIゾンタクラブ結成1周年を迎えて

ゾンタの奉仕の精神を大切に ..... 会長 西 麗子

ハクモクレンが可憐に気高く咲き匂う季節が巡ってきました。1年前の3月10日全国のゾンシャンの心からの祝福を受け、会員が一丸となりチャーターナイトを挙行了た、あの感激が昨日のこのように思い起こされます。

ゾンタの理念の達成のため、友情の絆を大切に、会員の意見を、委員会の活性化を図ることにより会の施策に反映させてきました。クラブバイローズを制定し、フォスターベアレント(スリランカの女子2名)、ネパールでの目の手術、治療の援助、大阪市の緑化推進のためハクモクレンの寄贈等です。

そして昨年の11月27日(日)には第1回のチャリティイベントを開催しました。原菊子エリアディレクター、吉田静子前エリアディレクターをはじめ、実に340名という多人数の方にご出席頂き、会員一同心から感謝しております。

1994年3月芸術選奨文部大臣新人賞の栄誉に輝く大石芳野様の講演は、鋭い感性で人々の内面に迫り、真実は顔の表情に現われる旨の素晴らしい講演をされました。大石様は私達と同世代でしかも専門職と共通点多くこれからも益々

のご活躍を祈念しております。ライカン・カラグローバさん達と山本景子さんとのコンサートはとても感激し、心を打たれました。晩秋の有意義な一日でした。

年が改まり平成7年1月17日あの忌まわしい阪神大震災がおこりました。17秒の揺れがもたらした被害はすざまじく、大阪IIのメンバーも、物心両面で、大きな被害を受けました。1月は例会が出来ず、2月の例会も出席者10名と、大変寂しいものでした。『奉仕する』立場というのは、ある意味ではhappyな状態であることを痛感した次第です。

大震災にも負けず、ハクモクレンは今年も清楚に香り高く咲いています。本年は大阪IIの役員改選の年に当たっています。なるべく多くの方が役員を経験するのが良いと思います。私達大阪IIは、第一に会員間の友情の絆を大切にしたいと思っています。そして共に手を取り合って、ゾンタの理念を実現すべく前進していきましょう。どうかよろしく願い申し上げます。





はじめに  
写真家大石芳野さんをご紹介します。

先生は、日本大学芸術学部ご卒業、鋭い感性と視点で人間、戦争、平和をテーマにカメラに



おさめておられ、ことにアジアの国々の女性の内面に迫る感動的な写真をとられています。……

1994年11月27日、はじめてのチャリティイベント、講演者大石芳野さんの紹介がはじまりました。ロイヤルホテル山楽の間は各地のゾンシャンの方350名を迎えていました。昨夏から準備をはじめ、ようやくたどりつき、やっと迎えたこの日、紹介をする私の声は緊張のあまりふるえていました。

「女性と地位向上」のグループは、自分たちの勉強のために、講演にきていただく方たちのリストアップをしていました。関西NGO協力協議会の笹江さんとふとした会話から、大石芳野さんの名を知ったのです。関西NGOは、私の働く職場の中にその事務局をおいて活動をしています。今回の阪神大震災においても、いち早くボランティアのネットワークを組織し、「応援する市民の会」を結成、被災地の中で数々の活動を展開しています。そんなNGO団体が一昨年の関西でのイベントで大石芳野さんをシンポジウムのパネラーとして招かっていたのです。「いい方がいますよ」そのことばどおりの日が迎えられるとはその時まで実感していませんでした。

7月下旬、笹江さんの協力を得て大石さんにはじめて講演依頼のFAXをいたしました。ちょうどその頃、朝日新聞に、核を撮る写真家、広島でシンポジウムという見出しの記事に出会いました。これは核の半世紀一撃者は語るをテーマにした「世界写真家、平和シンポジウム」で広島の国際会議場で開催されたものでした。世界各地で核のもたらした惨禍をレンズで告発されている大石芳野さんをはじめ6人の写真家の方々が、核時代の原点は広島にあると受けとめ、核兵器廃絶のためにカメラで戦っていく決意をのべられたものでした。その後もNHKの番組でアジアについて語られるなど、急にテレビや新聞のマスコミに登場される大石さんに出会うようになりました。まさに「時の人」なのです。

アジアの取材活動などでご多忙の大石さんとは、FAXやお手紙のやりとりばかりで、ずい分互いを理解するのに時を必要といたしました。この時ほど遠隔地の方を講演にお招きするむつかしさを感じたことはありません。しかし、こんな不安をふきとばすかのように、西会長の心強いご協力の中で、しだいにまとまっていきました。当日、会場ではじめてお会いした大石さんから「どのようなお話しをいたしましょうか？」と気軽に話して下さり、急にホットいたしました次第です。

今回は「ファインダーを通して見た女性のいのち」というテーマのもと40分という短い時間でしたが、聴くもの考える時を与えられました。

「人の顔はその人の環境や戦争などを反映して、その人を

つくりだしている」ことを強調され、カンボジアアポルト派と第2次世界大戦のアウシュビッツの顔の写真的類似点など興味深い講演でした。

写真家なのでスライドがあればよかったのでは、また90分の中で質問を聞くことができれば、さらに良かったのではと反省点もあります。しかしながら、皆で力を合わせて、この大きなはじめてのイベントを成功裡におさめることができ、「あーよかった」と感謝の気持ちでいっぱいです。

講演の興奮が冷めなかったのでしょうか。当日買いもめた著作「カンボジア苦界転生」をその夜一気に読みあげたのです。私の心にアジアをみる眼がまたこえました。240ページからなるこの写真集に大石さんは1冊1冊力強くサインをして下さいました。

その本には次のように書かれています。…

1966年にカンボジアの地を訪れて以来、人々とつきあい、レンズを通して見つめ、カメラを肩に歩き廻ってきた。人々が刻んできた年月は、人間の想像を絶するおぞましさと、計り知れない深い悲しみを同時にさらしたものだと思ったからだ。だからこそ、カンボジアは決して離れられない地域になった。長年にわたって言語を絶する苦界の中にあつた人々が今ようやく明るい生活へ向けて転生の時を迎えている。…

そんな写真集を皆さまに、ぜひ読んで、アジアの国を感じていただきたいと今も強く、思うのです。

講演のあとティラミスを食べながら、大石芳野さんと気さくに話し合い、大阪だけでなく全国のゾンシャンへとその輪を拡げていくことができたように思います。

ありがとうございました。





平成7年の新しい年を言祝ぐ暇もなく、関西は阪神大震災という未曾有の被害をもたらした大地震に見回われ、美しい景観を誇る神戸や大阪の一部は瓦礫の山と化してしまいました。死者5500名余、負傷者2万6千名以上、倒壊家屋9万件以上という物凄さです。この大災害で直接被害を被った方々は勿論のことですが、兵庫県、大阪府在住者で何らかの影響を受けなかった人はありません。特に電気、ガス、水道等の供給の断たれた地域の悲惨さは想像に難くありません。またしばらくは、電話回線が不通で連絡も出来ず交通も不通となりました。そしてはじめは助かったことを喜んでいた人々も、不自由な状況下で、体調をこわしたり精神的に落ち込んで行きました。拍車をかけたのが、悪性のインフルエンザの流行でした。全員が鬱状態で、元気な人はいなかったとおもいます。

そんな時、板東ガバナー、原エリアディレクターを始め、全国のゾンシャンの皆様からは、お心のこもった電話、電報、ファクシミリを頂戴しまして、どんなにか勇気づけられたか判りません。ゾンタの皆様の温かい励ましを受け、心を奮い立たせ、比較的被害の少なかった会員が被災会員を訪問して、会の立て直しを図った次第です。皆様のお励ましがなければどうなっていたか判りません。また2月19日の地区大会準備会長会議では、大阪Ⅰと共に大阪Ⅱも人頭分担金を出席者のみとして頂き、心より感謝しております。なるべく多人数が参加しようとして話しております。

皆様の温かいお心配り、身に滲みて有難く、生涯忘れることはないと思います。会員一同厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。

## 阪神・淡路大震災アンケート調査報告

広報委員会 (文責・幡山)

去る1月17日の阪神・淡路大震災の被災状況についてアンケート調査をしました。会員29名中回答のあった者は、27名です。会員の住所地は兵庫県在住者8名、大阪府下在住者18名、奈良県下在住者1名、京都在住者2名です。

家屋については全壊した者1名、半壊した者1名。建物は残っているが手を入れる必要のある者3名。家屋に影響はなかったが、屋内の家具や食器、花瓶等の破損、又マンション(大阪市内)の温水ポンプや屋上水道タンクの故障による断水等、家屋以外に何らかの被害を受けた者16名、全く影響を受けなかった者9名となっています。現在大半の会員は元の家に居住していますが、家屋全壊した者が奈良市内のマンションへ、又、手を入れれば住める者の内1名が住居の修理が終わるまで大阪市内のマンションへ、建物に被害はないが交通事情の悪さから大阪市内のマンションへと仮転宅した者1名がいます。

我クラブでは居住家屋の被害よりも、むしろ仕事の関係で著しい被害を受けた者が多いのが目立ちます。職場を兼ねた自宅が全壊した者1名、役員をしている寺院の本堂と総門が全壊した者1名と、今後仕事を継続していく上で本拠地を失ったり、寺院の運営上巨額の出費を必要とする事態に陥った者がいます。

建物半壊した者2名については、寺の書院が半壊し修理を要する者や、料亭経営に欠かせない什器等をしまう土蔵が半壊し、建て直しを要する者です。勿論これら職場が全壊した者は商売道具についても尋大な被害を蒙っています。生け花教授に用いる高価な花瓶類が全壊したり、料亭で用いる食器類等について数百万以上にのぼる損害を受け、更に料亭が入居しているビルのエレベーター・リフト、硝子等共用部分の修理代の一部負担も余儀なくされる状況にあります。所有ビルの内壁、トイレタイルや受水槽の損傷、絵画教室を開いている家屋の損壊、音楽学校での教授に必要な三味線や琴の損壊等、職場、勤務先での単なる備品等の破損以上に、仕事を行う上で不可欠なものについて被害を受けた者が9名

にのぼっています。その他に物的損害をうけてはいませんが、地震後の予約キャンセルの続出により売り上げが減少したり、支店が入っているビルが半壊した為立入禁止となって営業できなくなり休業に追い込まれたというケースもあります。

地震による精神的、肉体的被害の状況についていえば、会員で怪我をした者1名、従業員が怪我をした者1名で、家族・従業員に死亡したり、入院をしたりした者はいません。家族・従業員が精神的ダメージを受けた者が3名いますが、特に高令の肉親がひどい精神的ショックをうけているのが目立ちます。

しかし、以上の被害状況にかかわらず、被災地に指定された地域の者も、それ以外の地域の者も積極的にボランティア活動や寄付を行っています。親戚、友人・知人、第三者の家族をホームステイさせた者6名、救援物資を送った者延べ22名、寄付をした者延べ40名、ボランティア活動をした者11名となっています。被災地域内の者でライフラインに損傷を受けなかった者は入浴サービスや洗濯サービス等を行い、又避難所に向いての手伝い等を行っています。又直接被災地でのボランティア活動に参加出来ない者も、自己の専門分野の知識を活かして被災地からの患者の受け入れ(外来、入院、手術)や震災法律相談、震災税務相談、倒壊家屋の診断等の活動を行ったり、職場での救援活動に専念したりしています。

以上がアンケート結果の概略ですが、これらの他にも有形、無形の間接的な被害は大きなものであろうと考えられます。最後に現在困っていることを聞いたところ、仮住まいによる二重生活の不便さや、交通事情の悪さ、又、なりわいとしていた生け花教授の弟子の被災による大幅な収入減等、現在も地震による影響から免れていないことがうかがえます。

以下次頁にアンケートの単純集計(複数回答)の結果を記します。

# 阪神・淡路大震災 被災状況についてのアンケート

## A 家屋（イ、持ち家、 ロ、借家）の状況についてお尋ねします。

- |                        |     |
|------------------------|-----|
| 1、全壊した                 | 1名  |
| 2、半壊した                 | 1名  |
| (1)、建て替えなければ住める状態でない   | 0名  |
| (2)、手を加えれば住める          | 1名  |
| 3、建物は残っている             |     |
| (1)、建て替えなければ住める状態でない   | 0名  |
| (2)、手入れすれば住める（瓦、壁、塀、庭） | 3名  |
| (3)、隣家の後片付けが済めば住める     | 0名  |
| (4)、影響を受けなかった          | 16名 |
| (室内の家具、食器、窓ガラスは破損)     |     |
| (5)、全く影響を受けていない        | 9名  |

## B 現在の居住状況についてお尋ねします。

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1、元の家に居住         | 24名 |
| 2、避難所で寝起き        | 0名  |
| 3、友人・親戚宅に身を寄せている | 0名  |
| 4、転宅した           |     |
| イ、同一市町村          | 0名  |
| ロ、イ以外            | 3名  |
| (1)、一戸建          | 0名  |
| (2)、マンション        | 3名  |
| (3)、共同住宅         | 0名  |

## C 仕事先の状況についてお尋ねします。

- |                        |    |
|------------------------|----|
| 1、全壊した                 |    |
| イ、月頃を目途に建て替える          | 0名 |
| ロ、不明                   | 0名 |
| (1)、仕事は続けている           | 1名 |
| (2)、休・廃業せざるをえない        | 1名 |
| (3)、勤務先を変えざるを得ない       | 0名 |
| 2、半壊した                 |    |
| (1)、建て替え必要             | 1名 |
| (2)、手を入れれば使用できる        | 1名 |
| (3)、ビル・建物の機能が回復すれば使用可能 | 1名 |
| 3、建物は残っている             |    |
| (1)、建て替えねば機能しない        | 0名 |
| (2)、手を入れれば使用できる        | 5名 |

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| (3)、商売道具の破損     | 4名  |
| (4)、影響を受けなかった   | 14名 |
| (5)、全く影響を受けなかった | 6名  |

## D ご自身やご家族（1親等）、従業員の精神的・肉体的状況についてお尋ねします。

- |                          |     |
|--------------------------|-----|
| 1、死亡した                   | 0名  |
| 2、入院を必要とする怪我をした          | 0名  |
| 3、入院を必要としないが、治療を要する怪我をした | 2名  |
| 4、怪我はなかったが、              |     |
| ショックで精神的ダメージを受けた         | 3名  |
| 5、心身共に影響はなかった            | 22名 |

## E 災害後の行動についてお尋ねします。

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1、他の家族をホームステイさせた |     |
| イ、親戚             | 2名  |
| ロ、友人・知人          | 3名  |
| ハ、第三者            | 1名  |
| 2、救援物資を送った       |     |
| イ、公的機関           | 8名  |
| ロ、親戚・友人等         | 14名 |
| 3、ボランティア活動をした    |     |
| イ、避難所で           | 2名  |
| ロ、自宅で            | 5名  |
| ハ、その他            | 4名  |
| 4、寄付をした          |     |
| イ、公的機関へ          | 8名  |
| ロ、個人へ {見舞金}      | 18名 |
| ハ、団体へ            | 14名 |

異人館通うろこの家





知人に会えば「ご無事でしたか」があいさつ。家屋の倒壊で引っ越しを余儀なくされた方も数多い。誰もが長年住み慣れた町を離れる気はなく、なるべく近くというのが皆同様の望みである。普段はあまり付き合いのないクールな隣人達であるが、今回の緊急事態で示した助け合いの姿は感動的なものであった。

サバイバル生活にもやっと慣れ、友人達の消息も聞こえ始めた。命からがら東灘区から逃げ出した友人はマンション倒壊の為マイホームを失った。同級生のお母様は家屋の下敷になり即死された。芦屋に住む友人は両親を一度に失った隣家の子供達を預かっているという。仕事を頂いている外人住宅のオーナー（1月24日が社葬の予定）の奥様の訃報には声も出なかった。会社も被害にあい、喪主も亡くなり、社葬の予定も立たないという。昭和天皇もお立ち寄りになった、アンティークに囲まれた灘区のご自宅も全壊。兵庫県南部地震から阪神・淡路大震災へとネーミングが変わる頃、世界的画家で、友人の師でもある、津高一氏の訃報が知らされた。新聞がやっと使い始めた阪神・淡路大震災。この阪神の二文字を聞いて改めて震災の真ただ中に居る自分を自覚した。

伊丹の美術館から、ドーミエの『「ブルジョア」貴族』の鼻が欠けたとの報告が、企画展中止の知らせと共に届いた。阪神間はもともと大阪と神戸の中間という意味で、山と海に囲まれた別荘地であった。明治末期から裕福な大阪商人が移り住み、風光明媚な住宅地となった。その暮らしぶり  
は、谷崎潤一郎  
の「細雪」  
でも

知られている。最近では村上春樹の作品に「さるの居る公園」、芦屋市打出が登場している。小原流を始め、華道、茶道の家元も多い。戦前から美術愛好家が多く住み、美術館も密集している。戦後は吉原治郎が率いる「具体」と呼ばれる前衛美術運動が、海外からも注目を浴びた。映画・写真の先進地、ファッション雑誌、生協運動の発祥の地でもある。これらはいつもクールな隣人関係を保ちたがる阪神間の人達の性格ゆえ、あまり紹介されていない。手塚治虫は知っていても、彼が阪神間に育った事はあまり知られていない。数多くの文化人が居を構え、ようやくマスコミも注目し始めた阪神間であった。43号線の阪神高速はオブジェとなり、そして消えた。文字通りゼロから、いやマイナスからの出発である。復旧を急ぐあまり、安易な再開発に走らないで欲しい。先駆者達の築いた文化と精神を見失う事のない復興を望むばかりである。





1994年9月14日、ゾントレーニングセミナーが開催された。テーマは「ゾンタとその活動」である。私も奉仕委員として一年経つのに何をしたいのか、よく分からないので勉強したいと思い、西会長、徳光、辻、牛田、柿木、宮本、田中（茂）、幡山の各姉と共に参加することにした。会場は横浜市の誇るモダンな建物が立ち並ぶ「みなとみらい21」地区にある「はまぎんホール」であった。

まず原エリアディレクターの御挨拶があり、本年度のフォーレイケ・ソランケ国際会長のスローガンは3H (HEALTH, HUMAN RIGHTS, HARMONY) であり、26地区エリア1のスローガンは3HとSERVICEであることを述べられた。

東京1ゾンタの中込姉の「ゾンタの今昔」と題した興味深いお話しがあった。

1961年春、ヒッツ女子がアメリカから派遣され、日本にゾンタクラブを発足させるために来日した。ゾンタは何であるか、又、ゾンシャンは何をすべきかを3ヵ月もの間、会合を重ねて勉強し、やっと東京ゾンタクラブが発足した。ゾンタクラブは1919年アメリカで少数の女性により結成され、奉仕と女性の地位向上を目的とし、又その存在理由としてきた。

ゾンタの目的は：

1) 奉仕。その中に資金を使って行うものと自分の才能健康を使って行うものがある。奉仕はゾンタの成長と共に成長するものであり、命の永いものでなければならない。中国では投資した金は、野菜は二年、樹木は十年、人間は三十年で実を結ぶ、と言われている。永い目で見ないといけない。

2) 女性の地位向上。

女性の参加により世界平和はよりよくなる。法律上の地位改善。女性自身が自分を啓発する。受け入れ側の男性が女性を尊重して受け入れてくれることである。日本の女性参政権は、1911年平塚雷鳥女史が運動をおこして、1946年に与えられた。アメリカでは1918年に与えられている。

国際ゾンタの目的は世界レベルで奉仕活動をし、世界平和のために信頼と協調をし、女性の地位を向上させるものである。

今の日本は経済は発展したが心の豊かさが無いとも述べられた。

ついで、国際ゾンタ奉仕委員である原エリアディレクターより「ゾンタは奉仕なり」と題したお話を伺った。

ゾンタは奉仕を意味する。ゾンシャンは、各人の時間、能力、エネルギー、資金等の資源を提供して奉仕行事を行うものとする。

国際ゾンタ26地区広報委員会調査報告から。

奉仕の行事：「資金集めの行事として何をしましたか」についてみると、チャリティショー、ディナーショー等44.4%、バザー38.9%、会員寄付5.6%、その他11%であった。

講演、セミナー、フォーラム：「どの様な講演、セミナー、フォーラムを行っているか」

については、

教養関係が35%、職業婦人関係28.3%、国連関係10%であった。

奉仕活動：「どの様な奉仕活動を地域社会に行ってきたか」については、

- 1) 寄付金：その内訳は社会福祉事業50%、災害援助12.5%、文化活動に対する援助12.5%、盲導犬の教育への援助10.7%、骨髄バンク・アイバンク8.9%であった。
  - 2) 奨学金：留学生に対して75%と大半で、日本人には20%であった。
  - 3) 物品の寄付：図書点字27.7%、車椅子16.7%、植木16.7%、バスカー38.9%であった。
  - 4) ボランティア活動：心身障害者の施設に40%、留学生、心身障害者への音楽会招待26.7%、献血6.7%であった。
- 1994～96年国際ゾンタ奉仕委員会の目標。
- 1) セネガルとガテマラで国際ゾンタユニフェムの奉仕事業に支援。
  - 2) 国際の主要なる奉仕プロジェクトと同一行動で支援する。
  - 3) 女性の健康に対して各クラブ単位の奉仕プロジェクトを奨励する。
  - 4) 他の奉仕機関と奉仕に対して共同路線を歩む。
  - 5) ゾンタのPRに寄与する。
  - 6) 環境と識字運動等、現行の計画を支援する。

以上が目標である。

トレーニングセミナー終了後、「みなとみらい21」にあるランドマークタワーの日本一空に近いフロアで、懇親会が開かれた。私達のチャーターナイトに御出席下さった懐しいお顔に接したり楽しいひとときを過ごした。





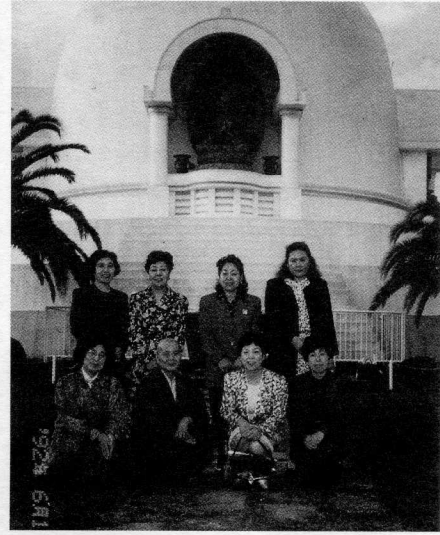
1994年度の奉仕委員会の企画のひとつは、百丈山老人ホームの訪問でした。私たちは実際にそのような施設を身近に見せていただいたことがありません。またその中で私たちに何が出来るか、考えてゆかねばなりません。一方、私たち相互の親睦のためにも、お互いにどのような仕事に携わっているのか知りたいと思います。そこでまず、川嶋さんの経営していらっしゃる施設を見せていただき、お年寄りとお話する機会を作りました。

百丈山老人ホームはほとんど寝たきりでおむつの必要なお年寄り（特別養護老人ホーム—福祉施設）と各自個室をもって自由に暮らしておられる経費老人ホームのお年寄りそれに身体障害を持つ子供たち35人を含め、総勢160人のお世話をしておられます。さらに、最近ではショートステイといって昼間だけこられるかたもあるそうです。川嶋さんのおばあさまが、私費でこのお仕事を始められました。6万坪もあるという広い敷地には、高台に真っ白な仏舎利塔が聳え、手入れのゆきとどいたお庭には、さまざまな花木が植えられています。また広いグラウンドや芝生はひなたぼっこや運動にもってこいのようなものでした。秋の運動会にはご近所の方も参加を楽しみにしておられるそうです。でもこれだけの施設を維持管理してゆかれるのは、川嶋さんを始め、職員のみなさんのご苦労もたいへんだなあとお見受けしました。

当日は秋の土曜日で会員の方でも、仕事や旅行の計画をもっておられたかたも多く参加者は半分（14名）ほどでしたが、お天気もよくてホームを案内して下さった方々もとてもよい方々で、私たちが久しぶりにくつろいで楽しいひとときでした。

しかしなによりも目的のお年寄りのみなさんとの交流がと

てもよかったと思います。真っ白いトレーナーを着たいさなおばあさんは86歳でもう6年ここにおられるそうですし、もうひとりのきれいなおじいさんは93歳でした。このようなお年の方々はそこにおられるだけで素晴らしい存在感があります。「ここは天国です」とおっしゃっておられました。かえって私たちが楽しむだけで、何もお役に立たなかったのではないかという感じでしたが、こうしてお話をする中で、おとしよりにとっては刺激ができて



よいのだ、とのことでした。たしかにスキンシップはとても大切なようです。そのようなことなら私たちもできるかなと思いましたが、こういう場を設定して下さった職員の方々、川嶋さんのご苦労を思いますとこれからの活動についてよく考えねばと思いました。

ともあれおみやげのボールや風船、各自で作っていったいさなプレゼントはとてもよろこんでいただきました。手術の後飛んできて下さった西会長、おひとりで10こものプレゼントを作って下さった中野麻里さんをはじめ、みなさんほんとうにありがとうございました。

## 移動例会「萩の寺散策」

安井 佳恵子



平成6年10月1日、村山啓子様の御主人が住職様でいらっしゃる、東光院、萩の寺での移動例会に参加し、楽しく有

意義な一日を過ごさせていただきました。

その名の通り、まさしく“萩”の寺で見事に、お庭一面に咲き誇り、私達が伺った日は、残念ながら、少し盛りを過ぎていましたが、満開の折は、さぞや、と言う風情でした。毎年、萩まつりが、盛大に行われるとのことでした。

食事、例会の後、住職様がお忙しい中、私達の為に時間をさいて下さりまして、村山様との結婚後、荒れたお寺の復興の御苦労話や、六百年ぶりに新調された「こより観音写経大衣」にまつわるお話などを楽しく聞かせていただきました。

村山御夫妻はじめ、お寺の皆様方には大変お世話になり、有難うございました。その上、美しい絵葉書や淀君ゆかりの萩の筆など、御土産も頂いて参りました。萩の筆を使っておられるメンバーのお母様の「とても書きやすく、喜んでいきます」との一言をつけ加えさせていただきます。



財務委員会

委員長 柿木 道子



財務委員会の仕事はゾンタの奉仕活動に必要な資金調達の為に、企画された催しなどの予算案をまとめたり、又、会の資産管理や、会計検査などがあげられますが、まだまだ勝手が分からずとまどう事ばかりです。

昨年四月、委員3名に、先ず、チャーターナイトの決算に立ち合って頂き、領収書などのつけ合わせを致しました。一円の間違いもなく数字がピタリと合った時は、「出来た!」と、全員思わず声が出て、後のお茶も一層美味しく頂けました。合って、あたり前なのですが、数字に嫌われますと、これが、なかなかなんですよ。また、次期の予算原案の作成に、皆で頭をひねりました。

資金管理という面では、管理すべき資金が昨年九月にようやく大金が出来、定例会のフリータイムを利用して、西会長を交えて、相談いたしました。とりあえず、三ヶ月単位の定期預金を致しています。会がまだ発足して間もないので、どういう時に、いくら位必要となるのか見当がつきませんから…。

この様に初年度からの財務委員会独自の活動は、多忙な会員が、わざわざ集まって決める程の仕事でもなかつたら、私、委員長の勝手な判断で開催回数が少なかったことを心からおわび致します。

女性の地位委員会

委員長 田中 茂美



当クラブが発足して1年8ヵ月になろうとしています。発足時は皆何をどうして良いか暗中模索でしたが、ようやく当クラブとしての目鼻が出来つつあります。ゾンタは各委員会の活動内容がそのクラブ内容を示すとされており面映い思いです。女性の地位委員会は現在7名で、初年度には3回、次年度は4回会を開きました。初年度末5月の委員会では次年度の活動方針・計画を話し合い、1) 女性の地位向上運動として講演会を開催し啓発の一環とする、2) アメリカイアハート研究発表、3) 男女共働社会実現のシンボルとも言える府立ドーンセンター訪問見学、4) YMCA を通じ子供の点字グループ援助、5) 女性健康キャンペーン参加、の案が出され、6月の委員会では、1) 2) 3) 案が採択されました。4) は奉仕と重なり、5) は人手と資金が必要の理由からです。諸案実行の方策を次に話し合い、1) については西村姉を通じ弱者としての女性の現状を現場から世に問う方として演者・大石芳野氏の名があがり、3) 案は津村姉の助力を得てドーンセンター見学会の時期が話し合われました。またアメリカイアハートについて調べ10分程の発表をしようと言う事になり、各々2・11月が支障少なく発表は1月の例会時にどうかと言う事でした。講演会&ティー・パーティで参加者を募るのは…又は津村姉御紹介にてバイオリンコンサートも行いたい…の案が出されました。丁度その頃、クラブイ

ベントの開催日時が決まり内容について役員会や例会で色々検討されてもおりました。クラブイベントの演者として建築家・安藤氏や五島みどり氏等、著名な方々の名が挙がっていました。が、夏過ぎて9月初旬には結局、当委員会の案であった大石芳野氏講演会&バイオリンサロンコンサートがクラブイベントの内容に決まりました。その後、準備等に西会長をはじめ西村姉、津村姉そして山本姉が東奔西走して下さり、皆様の温かい支援と強い協力により第1回クラブイベントは無事に終わったのです。1月の例会(新年会)は震災にて流会。2月例会は10名でしたがドーンセンター特別会議室をお借りし、黒住先生のアイキャンプの有意義なお話を伺いました。そして最新の諸設備とレストラン特製の美味しいデザートに溜息がでました。

こうして振り返ると社会活動よりクラブ内活動主体であった感があり反省しています。ゾンタは本来女性の地位向上や恵まれない人々の奉仕に専心する事を活動基本とする権威ある奉仕団体と教示を受けました。「女性の地位向上」とは具体的に何を為す事か自問し理解せねば、恵まれた状況にある私達は方向性を見失う可能性があります。委員会としては発展途上ですが、今後本質を踏まえて皆様の理解の下に良い活動を愉しく行うよう努力したいと思っています。

編集後記

阪神淡路大震災のため広報誌第3号の発行が2ヵ月も遅れてしまった。被災地在住の会員が1/3を占める我が大阪IIゾンタクラブでは、まず被害状況の把握、ついで被災地外会員から被災会員へのお見舞、救援と忙しい期間を過ごした。幸い全員の無事が確認されひと安心。ガラガラと崩れ落ちた家並みを眺めて形あるものは全て無になる、と実感。それと同時に助け合う人々の優しさに心を打たれた。お忙しい中、急いで原稿を寄せて下さった方々に深謝。(牛田)